

はまぼうふう vol.27 2008.8.8.

石狩浜海浜植物保護センター通信

HP 上ではカラーでご覧になれます

9年目 テーマは「市民グループとの連携」

「市民グループとの連携」事業で、今年の見玉は、なんとといっても「目指せ！石狩浜自然案内人」講座です。



これは、石狩浜を自然体験の場として、「NPO 法人 教育支援協会北海道」、「さっぽろネイチャーゲームの会」及び「北海道大学大学院農学研究院 花卉・緑地計画学研究室」の協力により、おもに若い世代をターゲットとして、子どもたちに石狩浜の自然の見どころや楽しみ方を伝える方法を学び、「こども自然教室」などで指導のサポーターとして活躍する人材を育成しようとするものです。全体で3期に渡る比較的ハードな内容のプログラムとなっています。



6月の第1期は、午前中に同時開催した自然観察会に一般の参加者に混じって、ハマナスなど海浜植物が最盛期を向かえつつあるはまなすの丘で、地形や動植物などの自然情報を学んだ後、午後からネイチャーゲームを体験。翌週のこども自然教室では、参加親子のサポーターとして指導実践を体験しました。

なお、8月に第2期（7、8日に終了）、9月には第3期を開催しますので（詳しくは下記参照）みなさんの参加をお待ちしています。

センターを一層活用し、効率的に運営していくためには、グループや個人のみなさんの力が必要です。これからの、他の施設やNPOなどの民間団体、市民グループと連携した事業を行い、保全活動に取り組む地域のみなさんへ自然情報を発信していきます。

行事や展示の予定

石狩浜野鳥観察会（川の博物館との共催事業） 参加者募集

日時：9月6日（土）9時半～12時 費用：無料
集合：9時50分 はまなすの丘公園ビジターセンター駐車場
なお、市内12ヶ所からバスが出ます。
定員：30名（先着順 小学校3年生以下は保護者同伴）
申込締切：8月31日（日）川の博物館（月曜休館）へ
tel：0133-64-2507

センター展示情報 みんなの展示コーナー

9月10日（水）～29日（月）石狩砂丘のきのこ
石狩砂丘で見られる菌類相と海浜植物の関係について、
ポスターや標本、関連書籍などを展示します。
（NPO 法人北方菌類フォーラムによる企画展示です）

目指せ！石狩浜自然案内人（第3期） 参加者募集

9月14日（日）現地視察とネイチャークラフト体験
9月20日（土）石狩浜こども自然教室での指導実践
両日とも9時半～15時半 集合：9時20分市役所駐車場
定員：15名（先着順） 費用：無料
持ち物：筆記用具、昼食、外で活動する格好
申込締切：9月5日（金）

石狩浜こども自然教室 参加者募集

日時：9月20日（土）10時～15時
集合：9時50分 石狩浜海浜植物保護センター
定員：30名（先着順 子ども又は親子 小学校3年生以下は保護者同伴）
費用：子ども（中学生以下）100円、保護者300円
持ち物：筆記用具、昼食、外で活動する格好
申込締切：9月17日（水）

「海（海辺）」と「人」とのつながり 4回目は、「重い水・軽い水」です。

前回、海水には様々な元素が高濃度に溶け込んでいて、陸水よりも重たく、それで陸水と海水がなかなか混じり合わないと言いました。これは、海水同士、陸水同士でも同じです。お風呂を沸かしたとき、かき混ぜないと表面付近は熱くても、底の方は冷たいです。温かい水、つまり軽い水は浮き（？）温度の低い水＝重い水は下方に沈みます。海水も、上から下まで温度（密度）によって「層化」しているのです。

下の図は、昨年2月と7月の石狩湾の表面と水深50mの水温分布です。

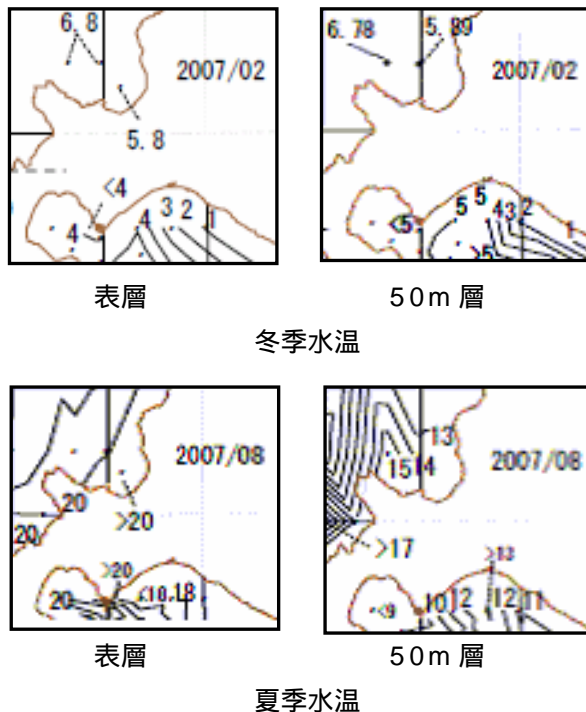


図1 石狩湾の水温

「海況速報（H18 第6号、H19 第3号）」
北海道立水産試験場より

冬季は、表面から50m層まで水温に差異は見られず、ほぼ均一な状態になっていますが、夏季は、表面と50m層では5度も違います。このように、季節によって水温が変動する層を混合層といい、地域によって異なりますが、中緯度地帯などでは一般には水深が数十mから150mほどです。

それ以深から、1,000mあたりまで温度が急激に低下し、その後変化は見られなくなります。ここまでの層を温度躍層（密度は温度と塩分によって決まるので密度躍層ともいう。）といい、混合層のように

水温が季節によって変動しません。また、温度躍層は高緯度地域にはありません。さらに温度躍層以深を深層といい、水温は+3~-1にもなります。

図2は、北太平洋のある地点の水深方向の水温分布です。

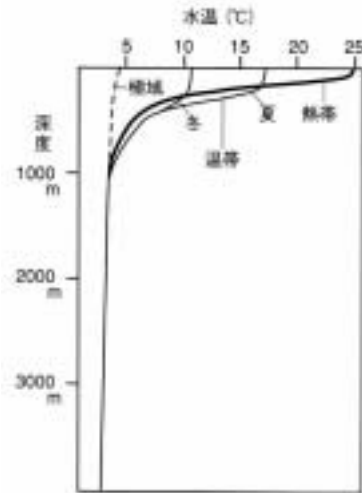


図2 水温の鉛直変化 (Garrison, 2002)

「地球学入門」東海大学出版会より

このように、海水は重さ（密度）によって成層化し、各層間の海水の混合は容易には起こりません。特に、夏は表面付近の海水は日射で暖められて水温が上昇するため、この傾向が一層顕著になります。

水の上下交換が起こりにくいということは、何を意味するのでしょうか。表面近くは、たっぷりと太陽光があたり、大気と水域表面との気体交換が活発です。さらに、栄養分があれば植物プランクトンの光合成によって酸素も十分溶け込んでいるでしょう。しかし、混合層から下は、光も届かず、生物が存在するには非常に厳しい世界なのです。海の世界連鎖の中で、最下位に位置する植物プランクトンが増殖していくために重要な要素は、光、二酸化炭素、栄養分などですが、これらが十分なところは、全海洋の2%にすぎない、わずかな混合層の部分なのです。ここで、海洋の生物生産の基礎的な部分を担う植物プランクトンが大増殖するのです。

では、海洋はこんなに広いのに、どうして限られた部分でしか植物プランクトンは増殖できないのでしょうか。

(次回に続く)

* マメ知識 *

海水の温度：地表では、温度は温度計の数値のとおりですが、海洋の水深は数千から1万 m 以上もあるため、深海ではその水圧によって、本来の水温よりも1 以上高くなっています（その水深での水温を現場水温といいます）。本稿では、海水温はその存在する深さから、断熱的に海面まで持ってきた水温、ポテンシャル水温を使用しています。

ボランティアレポート

ボランティアのみなさんが、活動のようすをPRしたり、自ら調べたレポートなどを紹介するコーナーです。

オホーツク・知床の旅(2)～知床にて～

(前号からの続き)

小清水原生花園から知床へ向かう途中、斜里町立知床博物館へ寄る。1冊 500 円のミニブック、郷土学習シリーズが充実している。「斜里海岸の植物」、「アイヌ文化 草と木樹^{きぎ}」、「知床海岸の花 100」、「斜里海岸砂丘の自然」の4冊を購入。1979年に第1集、1998年に第20集が発行され、2006年に最新の増刷が行われている。きちんと、そして気軽に、その地域の事を知ってもらうためには、小冊子のようにわかりやすく知識・情報をまとめたものが絶対に必要である。「はまなすの丘の花 100」、「石狩海岸砂丘の自然」、「はまぼうふうの不思議」等、石狩でもたくさんネタはあるだろう。どのように出版経費をやり繰りしているのか、知りたいものだ。

オシンコシンの滝は駐車場が満杯で、この辺りから知床の賑わい振りを察した。ウトロ到着。ウトロ港から知床観光船に乗り、硫黄山航路に行く。断崖海岸が知床国立公園及び世界自然遺産登録エリアである。船が航行するこの海域もそうだ。海鳥の営巣地、奇岩、サケが上る川、硫黄の析出場所等々。

翌日、知床五湖へ。知床国立公園及び世界自然遺産の登録エリアに入る。途中、渋滞。上高地や尾瀬ではマイカー規制があり、途中からバスに乗り換えなければならない。散策路入口に熊の注意看板はあるが、国立公園あるいは世界自然遺産に関する看板は特になかった。知床五湖は、国立公園内でも規制の厳しい特別保護地区なのに、誰からも散策時の注意を聞くことなく歩き出す。ここが特別保護地区であること、そこでの規制について知らされていない。観光バス利用者はわからないが、マイカー利用者は個々人の判断にまかされている。公園管理費名目で、



(知床五湖の一湖)

観光客が多く集まる場所では入場料を取り、その時注意事項を書いたパンフを渡すなどしてはどうだろう。知床国立公園内で公園管理、観光客への情報提供等をする主な施設は、知床自然センターと羅臼ビジターセンターである。両施設を駆け足で立ち寄ったが、公園内でのマナーやルールについて目にしなかったように思う。目立つ表示をしていなかっただけかも知れないが、一考を要するのではないか。

知床横断道路では、道路法面の芝生を食べる野生シカの群れを観光客が写真を撮っていたが、トラブルはないのだろうか。熊に対しても同様の光景が見られるとのこと。

以前、世界自然遺産登録地域でもある、カナダのバンフ国立公園へ行く機会があった。ここに入る時には、同行ガイドから注意事項をかなりうるさく言われた。「写真以外は何も取らないで。足跡以外は何も残さないで。」というのがカナダの国立・州立公園のスローガンなのだ。野生動物と距離をとり、餌を与えてはいけない、動植物や石等も採集してはダメだし、移動させてもダメ、全ての物はその場に残す

等。ルールを守るならば、自然遺産登録エリア内でも自由に行動してよい。スローガンやルールの根底にあるのは、「今ある自然は先人が残してくれたもの。我々もこの自然を未来の人達へ残してあげよう」と

いう考えである。それと比べて日本にいる私達はどこで自然との接し方、自然との付き合い方を学ぶことができるのだろう。大変心もとなく感じた。

(寄稿：安田 秀子)

最近の活動のようす

5月 日本造園学会の全国大会に参加

24日(土)、北海道大学で開催された日本造園学会の全国大会に参加し、ミニフォーラム「海岸景観と海岸植物群落の保全を考える」の中で、石狩浜における海浜植生のこれまでの市民の保全活動と市の保護施策、海浜植物保護センターの設置の経緯、現在の状況など「海浜植物の保護と環境教育」と題して発表しました。



また、大会前日には話題提供者のみなさんを石狩浜に案内し、車やバギー等の走行跡や海浜植物の開花、ヴィジターセンターからはまなすの丘を視察した後、保護センターで市民の方も交えて、翌日に向けての情報交換を行うなど、他地域で海浜地の保護活動に携わっている方と交流を深めました。

6月 はまなすの丘から生中継

3日(火)、NHKの「おはよう日本」で、はまなすの丘のハマナスの開花が全国版と道内版で生中継されました。ハマナスが咲き始めたはまなすの丘を多くの方に見ていただきました。



7月 市内の公園で海浜植物が満開

センターの支援ボランティアの方が手入れをしている、紅南公園と花川南公園の花壇の海浜植物が花を咲かせて見ごろを迎えました。先日、エゾカワラナデシコが茎から切り取られました。花を取ったりしないようお願いします。



8月 NHK総合テレビ「さわやか自然百景」

初夏から夏にかけて、はまなすの丘で花と昆虫、野鳥の子育てなどの生態を取材し、3日(日)午前7時45分から14分間放映されました。



8月 地形復元試験実施

北海道大学大学院農学研究院とセンター共同で、「石狩海岸における利用状況と植生モニタリング調査」が始まりました。植生の車等による踏みつけによる影響や、砂丘地形を含めた回復の状況を今後10年間に渡りモニタリングします。



お知らせ

4月に、多くの市民ボランティアのみなさんと実施した帰化植物除去を10月中旬にも行う予定です。

センターでは、実施時期が決まりましたらボランティアの方を募集しますので、ご協力願います。

問合せ

4/29~11/3:石狩浜海浜植物保護センター 〒061-3372 石狩市弁天町 48-1 tel.0133(60)6107

申込み

11/4~4/28:石狩市役所市民生活部内 〒061-329 石狩市花川北6条1丁目30-2 tel.0133(72)3240

email. ihama@city.ishikari.hokkaido.jp

HP: <http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/kaihinsyokubutu/>